

「リフレッシュ理科教室」の開催にあたって

(社) 応用物理学会 教育・公益事業委員会 委員長
久間 和生
(三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 所長)

< 生徒のみなさんへ >

理科の授業で、「初めて自分で教材を使って、ものを組み立てて、動かしたり、電池を使って豆電球を光させた」ときの楽しさを覚えていることと思います。このように「理科とは難しいものではなく、自分で身近に感動できたりする本当に楽しいもの」なのです。

みなさんが普段の生活で使っている家の電気製品だけではなく、色々なものに、理科の物事が使われています。さらに最近、日本から理科の分野で2人もノーベル賞を受ける人が出ました。また、アインシュタインという人が、すごい3つの理論を発表してから、今年はちょうど100年目で世界物理年という記念の年になっています。有名な賞を取る人も、最初はみなさんと同じように、楽しい理科実験から初めて、色々なことに興味をもって、そのことを調べたり、知ったりすることを楽しんでいたのでしょう。

リフレッシュ理科教室では、みなさんが「理科とは、こんなにおもしろいものなんだ」というような、楽しい物作りや実験を用意しています。まず、自分の手を使って、もの作りすることの楽しさを知って下さい。そして、分からないことがあっても、恥ずかしがらずに、色々な人に聞いたり、自分で調べたりして、「わかったときの感激」も、ぜひ、経験してもらいたいと思っています。一日、遊びに来る気持ちで、ゆっくり楽しんでください。

< 教師・一般の皆様へ >

昨今から深刻な問題として捉えられている、「若者の理科離れ、物理嫌い」は、現在まで日本が確立してきた技術立国を根底から揺るがしかねない問題と考えられます。小学生は好奇心が旺盛であり種々の新しい教材を用いた工作などにより、理科という分野に初めて接し「おもしろさ」を持つ世代ありますが、中学、高校と進むに連れ、現象・事象のおもしろさや関心を持つことが薄れ、受験のための記憶という意識に囚われ、「理科離れ、物理嫌い」になってしまうものとも思われます。

教育・公益委員会においては、この傾向を少しでも改善し、逆に、「理科・物理が大好き」となるような生徒さん達を増やすことを目的に、「リフレッシュ理科教室」と題し、実験を主体とした催しを毎年開催して参りました。先生方におかれましては、日々の授業で多忙とは存じますが、学校現場とは異なった観点からの企画を立案しておりますので、「理科・物理というものを新しい視点」で見えていただく機会として捉えていただければと思っておりますので、この催しを通じて、実際の学校教育の現場で活用いただき、生徒さん達の理科・物理への関心を少しでも高めていただければと思っております。

最後に、本教室の開催にご賛同、ご協力いただきました諸団体、関係各位に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。